

# ■虫を調べる チビアメバチ亜科？

この間からヒメバチ科を調べているのですが、かなり大変ですね。でも、勉強だと思って亜科の検索から少しずつ試みています。



今回はこんな長い触角と長い産卵管を持ったハチが対象です。先日、簡単な検索をしてみて、ヒメバチ科チビアメバチ亜科になったのですが、今回、もう一度詳しく調べてみました

た。用いた検索表は次の本に載っているものです。

Henri Goulet and John T. Huber (Editors),

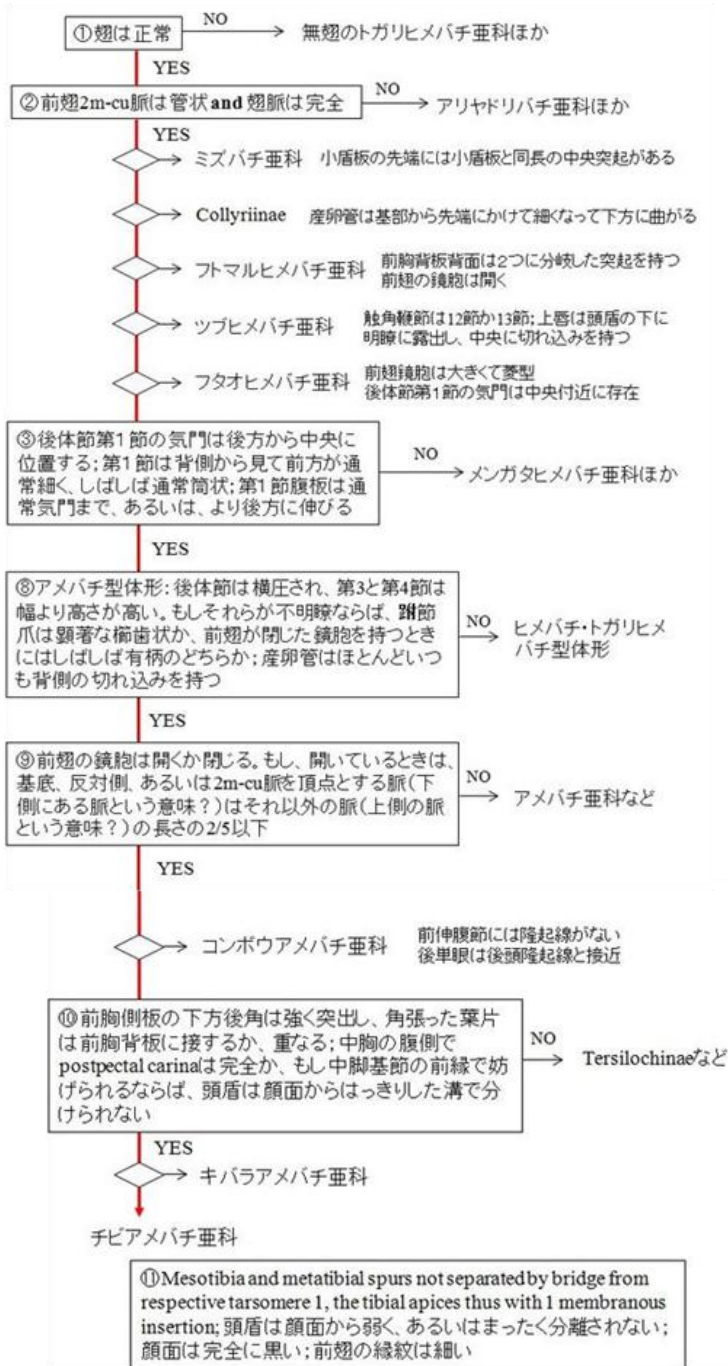
"Hymenoptera of the world, an identification

guide to families", Research Branch, Agriculture

Canada (1993).

原文は英文なので、私の拙い語学力で訳しながら調べていきました。幸い、この本では検索の項目ごとに絵が描かれているので、内容を理解するのは比較的容易でした。それでも、項目の内容自身はかなり難解で何度もやり直して見て、やっとチビアメバチ亜科で大丈夫かなということになりました。

検索の流れをまとめてみると次の図のようになります。検索表では、あたかも家を一軒ず



つ調べていくように一つずつ亜科を調べていく項目と、二股に分かれた道のように大きく対象を分ける項目があります。前者を菱型の記号で表し、後者を四角で囲い内容を書き入れました。実際の検索では一つずつ調べていかなければいけないのですが、ここではより重要だと思われる、二股に分かれる項目だけを写真で示していくことにしました。そして、それぞれの項目に通し番号を付けました。

さらに、Information Station of Parasitoid Wasps というホームページではチビアマバチ亜科の特徴がまとめられているので、それらも確かめてみました。箇条書きにして転載させていただきます。と次のようになります。

#### チビアマバチ亜科の他の亜科との区別に用いる形態

- ㉑ 小型から中型のヒメバチ
- ㉒ 頭盾は大抵、顔面と明瞭に溝等で分けられない
- ㉓ 大腮はしばしば、腹方にひだをもつ
- ㉔ 前胸側板の下方後角は強く突き出た葉片を有し、前胸背板に届くか、オーバーラップする
- ㉕ 中脚脛節と後脚脛節先端の棘は付節第1節(基付節)の基部と近接し、それほど離れない
- ㉖ 前伸腹節は完全な隆起線を持つか、しばしば一部を欠く
- ㉗ 前翅は鏡胞を持ち、鏡胞は閉じるか開き、閉じる際は三角形(五角形にはならない)
- ㉘ 後体節第1節は大抵細長く、先端方が幅広くなり、気門は先端方に存在する
- ㉙ 後体節の先端方は大抵、弱く~強く側方より平圧され、少なくとも♀の後体節先端は平圧される(例外:卵を沢山有している個体)
- ㉚ 産卵管は短い~長く、大抵上方に曲がり、背面先端方に切れ込みがほぼ常に存在する
- ㉛ 体色は黒色あるいは黒色と赤色(腹部腹板はしばしば黄色)が優先することが多い
- ㉜ 顔面は全北区の種においては滅多に黄褐色にならない。

これだけでも全部で十九項目にもなるので、確かめていくのは大変です。検索する順番に説明していけば良いのですが、ややこしくなるので部位別に各項目を説明していききたいと思います。例によって写真に項目を書き込んだのでそれを見ていけば良いようにしてあります。

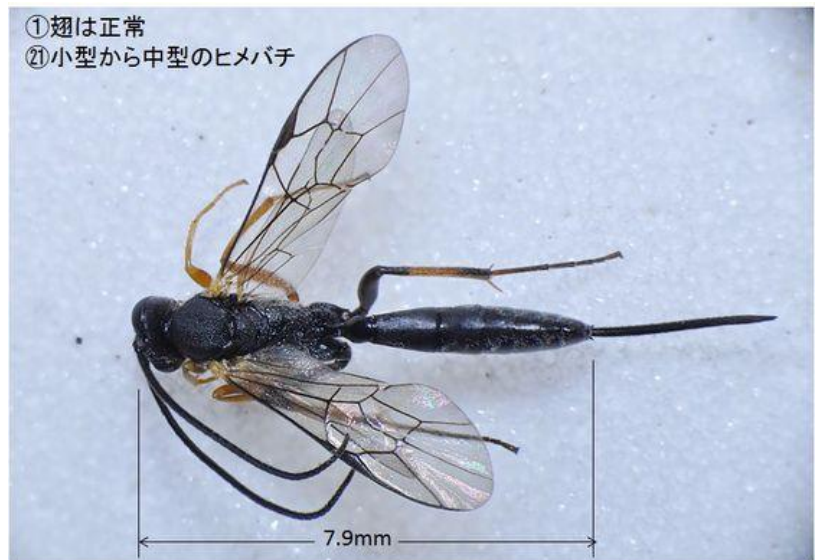


Fig. 1

まずは背面からです。体長は七、九ミ、中型のハチです。長い触角、長い産卵管、細い腰、黄褐色の脚など見えます。また、腹部は横から押されたようにやや平べったくなっています。

次は横からです。⑧は腹部が横から平圧されているということですが、第三節と第四節が幅より高さの方が高いというの微妙です。特に第三節はむしろ上下から平圧されているようにも見えます。従って、ひよっとしたら「それらが不明瞭ならば・・・」という記述に該当するかもしれません。⑩の産卵管は上方に曲がりというのはその通りですが、産卵管は鞘で覆われていて、切れ込みについては残念ながら見えませんでした。

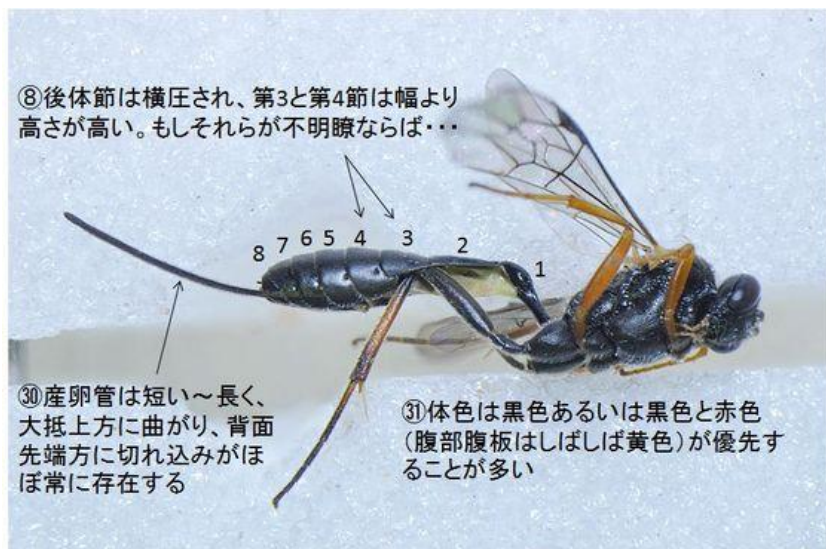


Fig. 2

これは後体節の先端方ですが、弱く側方から平圧されているというのが表現として合っている感じですが。



Fig. 3

次は頭部です。顔面が黒いのはすぐに分かります。頭盾と顔面の境目はほとんど分かりません。溝等で分離されていないことは確かです。



Fig. 4

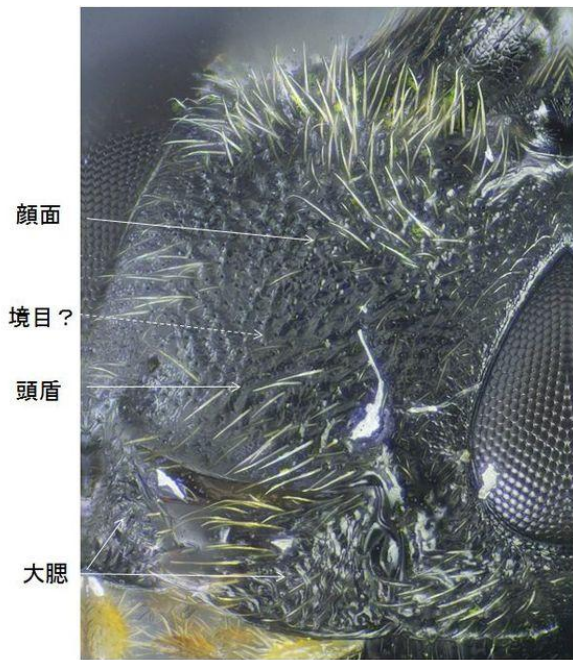


Fig. 5

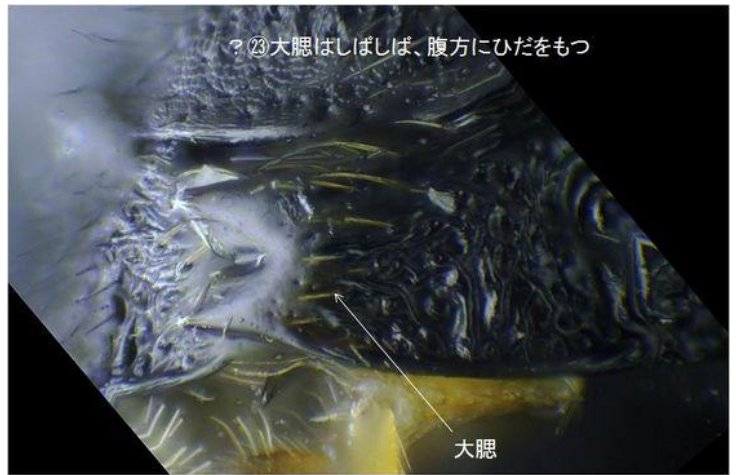


Fig. 6

次は後頭部です。後頭隆起線と後単眼はかなり離れています。これはコンボウアメバチ亜科を除外する項目です。



Fig. 7

顔の拡大です。やはり顔面と頭盾の境目はほとんど分かりません。表面に模様のある大腮が気になります。さらに二〇倍の対物鏡を使って大腮を拡大してみました。やはりなんだか分かりません。②③の腹方にひだをもつというのはどれのことでしょう。

これは胸部側面の写真です。⑩、②④の前胸側板下方後角というのは矢印の「前胸側板」で示した部分ではないかと思えます。突き出しているようではありませんが、これを葉片状というべきかどうかはよくは分かりません。



Fig. 8

次は翅脈です。前翅 2m-cu が管状というのは以前も説明しましたが、翅脈が体液の通ることのできるような管になっている場合を tubular (管状)、通ることができない時は nebulous (星雲状)、単なる折り目のようになっている場合を spectral (幽霊状?) という慣習のようです。

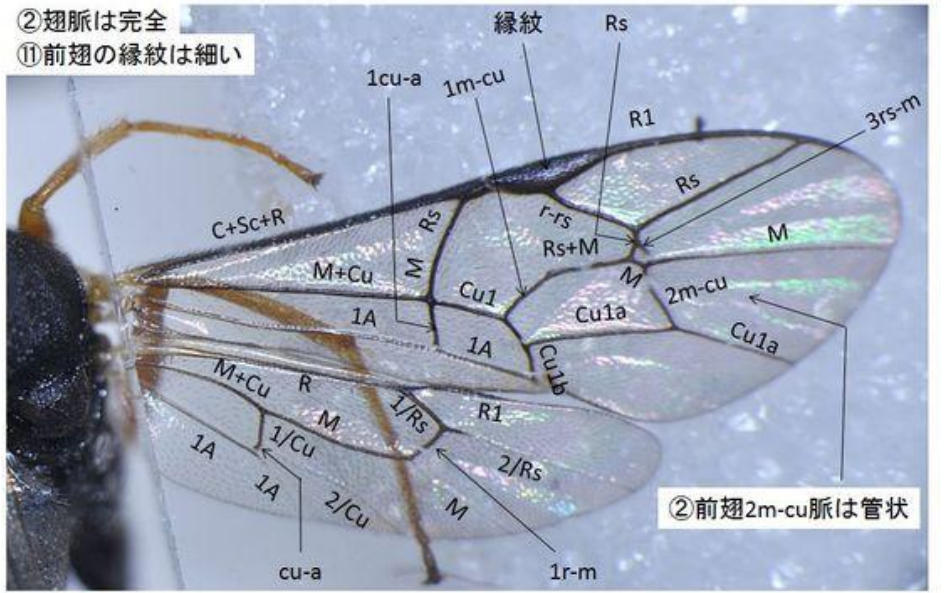


Fig. 9

鏡胞はヒメバチの分類では重要な位置を占めます。このハチの場合は四角形で柄があります。鏡胞が一部開いているように見えるのですが、これは閉じているという部類に入ります。

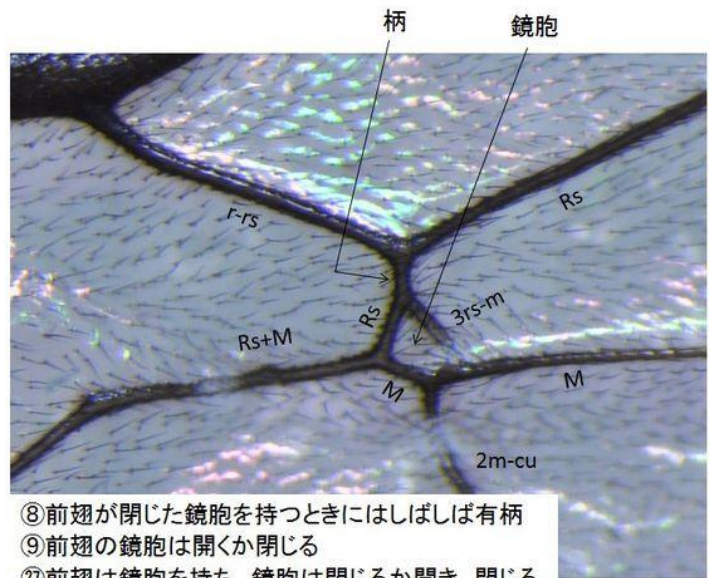


Fig. 10

次は中胸の腹側の端に postpectal carina という隆起線があることを示しています。



Fig. 11

これは前伸腹節の隆起線です。



Fig. 12 前伸腹節の隆起線

後体節第一節は細くなつていて、後方少し太くなつています。気門は後方側にあり、腹板は気門があるあたりまで伸びています。



Fig. 13

後脚脛節末端には二本の刺があります。

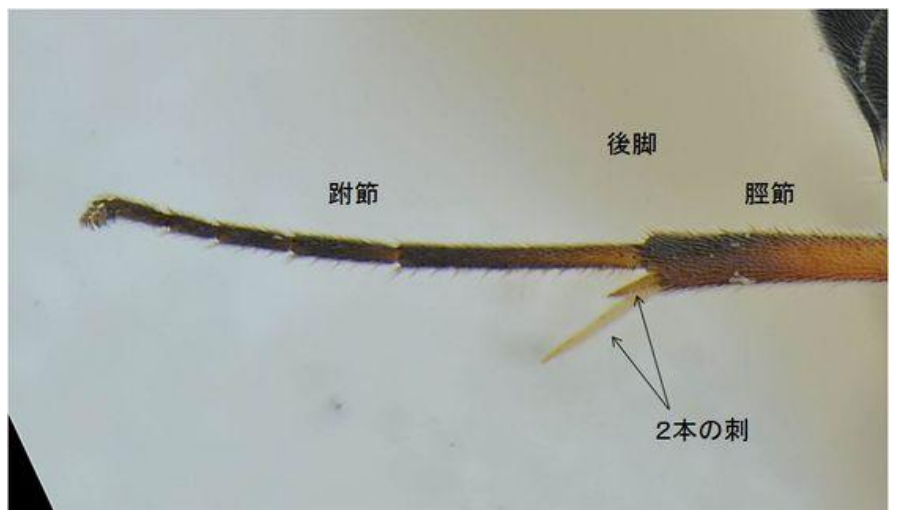


Fig. 14

次はその刺の根元のあたりを拡大したものです。先ほどの本に載っている絵からはこの部分を示しているのですが、英語がうまく訳せなかったので原文のまま書いておきます。内容はこの矢印で示した部分を指していると思うのですが・・・。

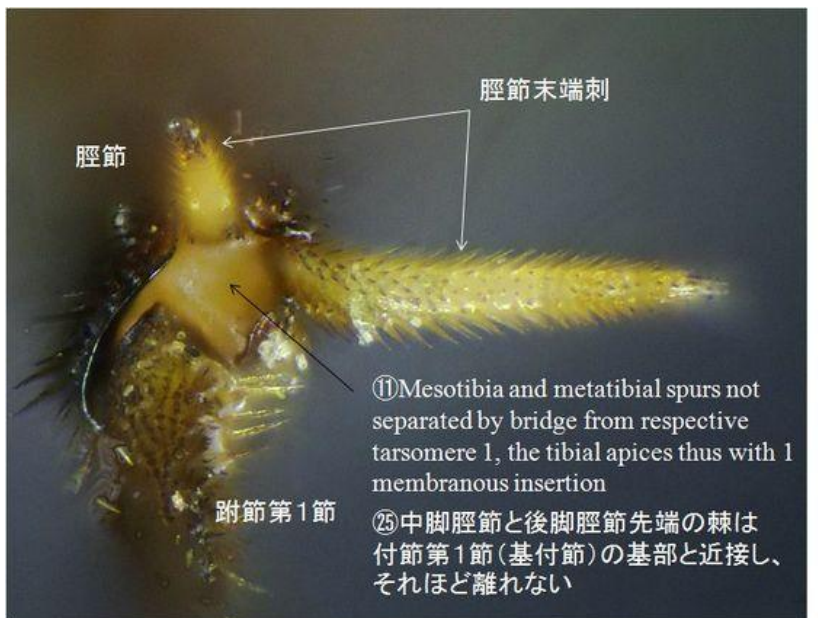


Fig. 15



Fig. 16

最後は脚の爪を拡大したのですが、櫛歯状になっていることがよく分かります。

ということでも長々書いたのですが、検索をしていて理解したことをまとめてみました。ヒメバチの検索は大変だなとつくづく思いました。ハチだけこんなコンピュータのフローチャートみたいな書き方をしたのは、一つ一つの項目に三〜四個の小項目が入っているのととても書ききれなかったからです。ハエなんかはもう少しすっきりしているのに、もうちよっとなんとかならないかなと思ってしまい